

人吉の復興まちづくり、に向けて…シリーズその③

人吉の魅力を創る2つの提案

Ⅱ被災から1年、人吉の町のこれからを、をこう考えるⅡ

人吉市民 松本晋一（人吉市九日町）

はじめに

前回、本誌8月号では2会場（参加者120名）で回収した「被災した人吉のこれからを考える・アンケート」回答者28名の声を中心に「人吉のこれから」を探ってみました。その回答から見えてきたものは、次の水害が不安なこと、移転先や資金繰りについての心配がある、など各種多彩な被災背景があり、人吉の復興まちづくりへの住民の皆様の回答は、ま

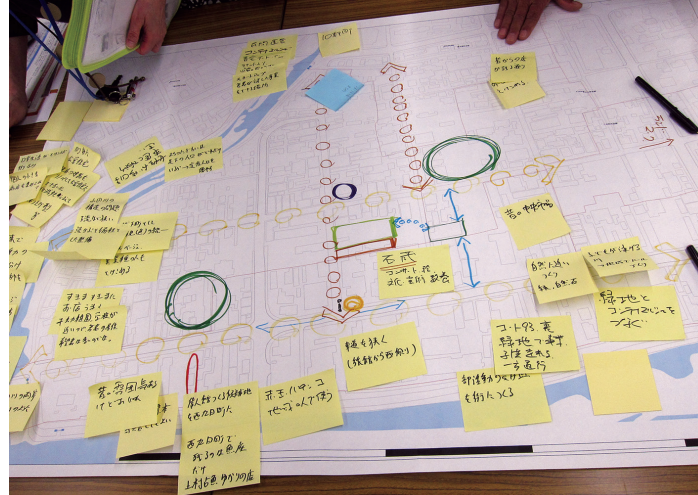
だしっかりと考えのまとまったものは少ないようでした。

そこで、このシリーズ③では、筆者が6月22日に人吉市に提出した「人吉市・被災市街地復興推進地域の制度」の実現に関する意見書の内容を中心に、著者の個人的な考えや思い、それに人吉市の地区別懇談会（東小学校）や九日町紺屋町再生会議（肥後銀行）での皆様の発言を元に作成した人吉の魅力づくりの提案です。

まちづくりは

地域資源(宝)の活用

新しい人吉のまちづくり、被災地復興の基本として先ず念頭に置くべきことは、この地は歴史的、地理的に古事記や平安時代以降、この令



九日町紺屋町復興会議提案（7月21日）



九日町紺屋町復興会議（7月19日）

和の時代まで1300年以上を経た「球磨人吉文化」で構成される魅力ある土地柄であることです。ここ球磨川水源・川辺川水源から八代海までの流域には、自然・歴史・文化・人物・交通・教育・産業・観光など、人吉

球磨独自の地域資源があります。これら球磨川流域の地域資源活用を踏まえた「ひと・まち・みどり」のまちづくりを大切にすべきと考えます。

これまでの人吉のまちづくりは観光中心に進められてきた感があります。被災した人吉の中心市街地を今後どうするか、どんな町にしたいか。

人吉球磨の地域資源を活かしつつ、よその人にも住んでみたいと感じる魅力ある町にするためにも、市民の皆様、土地所有者様、地域に関係する方々でしっかりと議論し、次の「今ある4つの人吉の宝」と「新しい3つの人吉の宝」を合わせた「7つの宝」で、新しい人吉のまちづくりを実現してもらえたらと思います。その材料の一つとして以下の2つの提案を致します。

提案1

今ある4つの人吉の宝を大切に

人吉球磨にも玉名の「韋駄天」に負けない、時代の夢を求めた「近代日本の代表ランナーたち」が居ました。それが先人偉人たちⅡ人物遺産Ⅱ人、地域の宝物の代表格です。勿論、その人を支えたのは郷土の自然、歴史、産業、教育、地縁、血縁からなる、この地の風土文化です。

今、この地には次の4つの宝物があるのです。これらが「この地の売り」にもつながります。それは自然、歴史、人、産業の素晴らしさです。この地の4つの「よかところ」を守り・磨き、語ることが大切です。

その宝とは…

1、自然のよさ…自然遺産

Natural Heritage

山紫水明・球磨川・川辺川を中心とする市房山・白髪岳他の自然遺産があります

2、歴史のよさ…歴史遺産

Historic Heritage

相良七百年、国宝青井阿蘇神社、三十三観音巡り、伝統行事他の歴史遺産があります

3、人のよさ…人物遺産

Human Heritage

一井正典、日野熊蔵、犬童球溪、川上哲治他、多くの先人・偉人の人物遺産があります

4、産業のよさ…産業遺産

Industrial Heritage

温泉、焼酎、石倉、林業、木造建築、肥薩線、くま鉄他、多数の産業遺産があります



この地にも玉名の韋駄天と同様、時代の夢を求めた近代日本の代表ランナーが居った中でも人物遺産=人のよさは地域の【宝】！

これらは「日本遺産」と同様、教育、産業、観光他、地域文化に活かせる資産です

次世代に受け継がれるべき4資産
～今ある、この4つの宝を磨きましょう～

人吉球磨の4つの宝＝4つのよかとこ
それは遺産Heritage=伝承すべきもの・特色・品格
自然のよさ、歴史のよさ、人のよさ、産業のよさ

1、自然遺産 Natural Heritage

球磨川 市房山 白髪嶽 山紫水明

2、歴史遺産 Historic Heritage ＝日本遺産 Japan Heritage

人吉城 青井神社 三十三観音 各行事

3、人物遺産 Human Heritage

一井正典 日野熊蔵 犬童球溪
高木惣吉 川上哲治ら、人のよさ

4、産業遺産 Industrial Heritage

肥薩線 くま川鉄道 温泉 焼酎
木造建築 マロン号バス 幸野溝

これら4つの地元の各遺産は、日本遺産を含めて、この地域の特色であり、品格であり、伝承・継承すべきものです。この郷土の4つ宝物をしっかりと守り、磨き、郷土の誇りとして大切にしたいものです。

提案2

3つの新しい 人吉の宝を創る

1、人吉の町割りと球磨川を大事にした「ひと、まち、みどり」のまちづくり

「あーよか町の出来たバイ」と訪れた人々が言うような町、他の人々がここに住みたいと思う町を創る。そのためには登録文化財となるべき産業

を中心、花と水と緑（自然）の潤いと人間の営みを軸に据えた「人吉らしさ」のある「ひと、まち、みどり」のまち創りが大事です。

2、人吉文化交流館

「おひとよし」（仮称）づくり
＝偉人記念館（展示）＋新図書館（情報）＋小ホール（集会）＋災害避難施設

4月24日付の人吉新聞「読者のひろば」に、文化の拠点カルチャーパレス（下城本町）の再建要望の投書がなされていました。勿論、現在のその場所での大規模施設の再建も可能だと思いますが、市内中心部が被災した今、その文化の拠点を市民がよりアクセスしやすい九日町紺屋町大工町筋の被災中心市街地

遺産や伝統的建造物等をしっかりと調査、把握。それらをランドマークとしてリノベーションし、併せて人吉らしい風情、川との共生、花と木と緑の町並みで、新しい町の色、町の匂い、町の香りを創ることが肝心です。

ただし、この場合も「人吉の魅力づくり」の背景となる1300年以上の歴史を持つ「球磨人吉文化」と球磨川流域の本来持つ「自然と水と緑」を基本とすることです。そして、この被災下の中で再発見される歴史的・文化的遺産、産業遺産を確実に救出し、修復・復元・活用することが大切です。

さらに大事なことは、これまで地震や津波に見舞われた先進被災地と同様な画一的なまちづくり、道路構成にしないことが肝要です。すなわち、人吉の町割りと歴史的背景の中に、川

に「人吉文化交流館」を新設することを要望します。その理由は中規模の新しい文化施設を中心市街地に創ること、それが被災地人吉の公的復興のシンボルになるからです。

人吉文化交流館の役割は「ひとよし文化」、即ち人吉球磨の良さ、楽しさ、面白さを見せる場、語る場、集める場にしたいかがでしょう。そこには、その地域、その町、そこに生きて来た人々が培ったものが沢山あります。その象徴の一つが偉人記念館です。

偉人記念館にはこの地域を代表する人物たちを紹介する常設コーナー、各種の人物遺産資料を閲覧・学習、販売する所を設けます。また常設以外の場所では、スペースがあれば絵画や写真、華道など各種の展示会場も兼ねるものです。



人吉市の中心市街地再生案例（第4回7月19日東小学校）

の杜をつくり、復興人吉を象徴する大きな木を植えて町の復興のシンボルツリー(目印)にするのです。しかし、この「人吉文化交流館」の機能は同一箇所集中して創設することにはこだわらなくても良いかと考えます。これらの複数の施設機能がこの被災地区の数力所に分散してレイアウトされる方がより効果的な役割が持てるのかもしれない。まず、出来ることから、即ちイメージ造り、機能と役割レイアウト創りから初めたいかがでしょう。被災内容によって現時点では住民の復興意欲が

次第に下がって来ています。まちづくりで大事なことは、街中が混乱している今だからこそ、市民の望むべき新文化拠点の青写真を被災地の中心部に描き、その施設を市民と行政による協働復興のシンボルとすることです。公益となるこの館の名称も公募し、次世代の新しい人吉にふさわしいネーミングにすればより夢が叶えるものと思います。この新文化施設建造には市民の皆様とのコンセンサスの共有、用地の確保、財源等、種々の問題点をクリアすることが必要です。被災市街地復興特別措置法の適用を受けて、まちづくりを実現しようとする今だからこそ、先ずは被災中心地にその「復興のシンボル」を策定したいとする、その策定実現への意思表示がより大切だと考えます。



中心市街地の新たな拠点となる緑豊かな図書館等のイメージ

人吉市第4回地区別懇談会資料より(図書館例)



敷地内を通り抜けることができる分棟型文化交流施設のイメージ

同上資料より(分棟型文化交流施設例)

新図書館の役割は先進地の図書館とは異なるコンセプトで、新機能・新企画の専門図書館とし、蔵書は特に球磨川の自然、自然災害とその対応、人吉球磨の歴史、郷土の文化、地元の産業文化、林業、焼酎、温泉、木造建造物、肥薩線・くま川鉄

道等の産業遺産などに特化し、地域の地域づくりに関する情報発信を行い、市民や研究者、観光客の学びの場(サロン)、人吉球磨と球磨川に関する情報源にするのです。そしてこの館内には各種の災害復旧の羅針盤となる人材を置き、災害情

報センター並びに災害学習機能及び難所機能(災害への備え)を持たせることが大事です。併せてここに市民課、商工振興課、福祉課など市役所機能の一部分を配置したいかがでしょう。

小ホールの役割は、現在、人吉の中心街にはない映画の上映会や観劇会、西洋音楽や邦楽などの演奏会、講演やブーム会議など各種の会合などの機能や設備を持たせます。

勿論、この館の建築デザインや素材にも郷土の木材資源をふんだんに活用、他所にはない近代的・歴史的建造物の意匠・デザインを踏まえた建物として、新たな美的景観と機能を持たせれば、中心市街地での存在感はもろろのこと、人吉らしさ(人吉の歴史的文化的価値)を含めて内外に発信・共有できる建物になればと考えます。この広場には花と緑の自然



九日町紺屋町復興会議案例（7月21日肥後銀行）

被災から1年、現時点のタイミングで「ひと、まち、みどり」のこの被災市街地での新構想発表は、被災した市民の生活意欲、次の行動意欲を良い方向に変容させるものと想像します。

しょう。そうすることで「5年後の人吉の今」が、もつと生き生きと輝き、楽しみになることでしょう。

参考資料・・

1、種元勝弘「近・現代の人吉を理解するために」昭和60年「ふるさと」思い出写真集・人吉・まとめ」より、球磨人吉の歴史的文化的背景を大事にすること

2、水戸岡鋭二「あと1%だけやってみよう」56～65P 集英社インターナショナル 2013

「街が混乱しているところは意識が低く、街のランドデザインがぼけている。街が建物をつくり、その建物がどうあるべきかをいうのは、意識の高い人の仕事」「観光とは光となる場所を観に行くこと」

3、人吉市復興計画基本方針内容より令和2年9月 熊本県人吉市 3

3.. 蘇る人吉「新・ひとよし物語」の本と映画づくり

次の5年間、これから鉄道と町が蘇り、人が蘇り、花と緑が新しく創られていきます。この町の歴史と文化、被災の始まりと復活、過去、現在そして未来を創る人々、花と緑の自然の杜と新しい人吉の町の姿をしっかりと記録・保存、映像化して、「新・ひとよし物語」の本と映画をつくり、蘇る人吉を具体的に記録し、童話や本（活字）と映画にすることで、この町の復興と存在が全国に知られ、その価値がさらに上がるにつなかります。

蘇り、進化・発展する人吉の宝「ひと・まち・みどり」の新しい人吉の魅力をつかりと記録、発信、物語ることが大事です。そのことがより

～4P

復興の主体は市民一人ひとり。「これまで最も大切にしてきた価値」の中の球磨川への想い。自然、歴史、文化を大切に、ここに生きる喜びと誇りを感じ、人と人との絆が広がるような人吉らしい復興を

4、青木辰司「人吉球磨を復興モデルに」2020・9・2熊日新聞投書

今後、地球温暖化による豪雨再来も想定されるが、この地でのように自然共生型の復興を目指すのか、英知が求められる。そこでコロナ対策と同様、全国の多様な専門家を結結した「人吉球磨自然共生社会構想会議」を立ち上げ「人吉球磨モデル」を構築する。その基本は「川を恨まず、川と向き合って生きる！」

5、「人吉紺屋町十軒づくり」21・4・23松本晋一メモ
紺屋町・洲田酒造（銀の露）西

良い脚本家、映画作家、監督そして地元のアートを育てることもつながればとイメージしています。

以上、2つの提案から新しい人吉の魅力づくりには・・

①今ある人吉の4つの宝「自然・歴史・人・産業」を守り、磨き、語る。
②新しい人吉の宝「ひと・まち・みどり」づくり＝町と緑と人吉文化交流館づくり。

③人吉の町が蘇り進化する姿を「新・ひとよし物語」の本と映画で紹介する。

この「3つの人吉の魅力づくり」を皆様に共有して頂き、これらを「人吉の復興まちづくりイメージの主題」として育んで頂ければと存じます。

今ある宝をより磨き上げ、そして次の新しい人吉の宝を皆で創りま

村酒店周辺の復活・再現は人吉の何を象徴するのか＝新しい人吉の町の形をどうつくっていくべきなのか？＝中心市街地に新文化の殿堂を創る↓その方法を皆で探る（熊本まちなみトラスト＋熊本産業遺産研究会ほか）

6、関根喜美子「文化の拠点カルチャーパレスの再建を」21・4・24人吉新聞「読者のひろば」

文化の復興は傷ついた人々の心を癒し勇気づけます。感動の場の再利用、開館を願う

7、松本晋一「被災した市街地に「新文化の拠点を！」21・5・8人吉新聞「読者のひろば」

復興のシンボルとなる新文化拠点（兼避難所）＝偉人記念館＋新図書館＋小ホールを九日町、紺屋町、大工町の中心市街地に新設。町づくりの目標となり市民の行動意欲が変容する

- 8、「被災人吉の見学及び協議会メモ」
2021年5月2日メモ 熊本まちなみトラスト(KMT) + 人吉の偉人に学ぶ会(HIMK)の第1回のねらい、松本の望む支援
- 9、「益城町復興計画のいま・事前復興の視点」鈴木桂樹「元熊大教授に聞く」(熊日新聞2021.5.5)
「自治体が常日頃からしつかりした将来ビジョンを作っているか」「市民がどれだけまちづくりに関わったか、作りあげた地域の課題は何かの自己点検」
- 10、内藤廣「空間のちから」
2021.5.15熊日新聞書評より
「記憶や原体験が思い起こされ、時代の文化や街のざわめきなどが集まってくる空間をつくり出す」「建築の価値は人の生きる長さを越えて何事かを伝えるところにある」
- 11、復興まちづくりに向けた説明会・磯田節子氏提案メモ

- 2021.5.15
まちづくりビジョンが決まらな
いまま、「安全」という名目で事業
が先行して実施される可能性があ
る。キチンと街中を調査して、町
割りや路地を残す、歴史的構造物
をのこしていく提案をすべきと思う
- 12、復興まちづくりに向けた説明
会・富士川一裕氏提案メモ
2021.5.15
(1)人吉市中心市街地は「人吉球
磨森林文化圏」を表象すること、
(2)引き堤や、かさ上げなど(東日
本で多用された)手法まずありき
ではなく地域固有の町割に即した
市街地整備を基本にすること、(3)
どちらかといえば土木スケールでは
なく建築スケール、街区単位で整
備計画を作成し部分的に4階建て
くらいでRC化して垂直避難を可
能にする

※災害時の行動を反芻すると避

- 13、金子裕子「リノベーションを軸に、
地域資源を掘り起こす」雑誌「東
京人」2021.6月号
「今あるものを活かす、空き家や
使われなくなった店舗などの建物を
“まちの資源”とみなし、リノベ
ーションしてまちを元気にすること。
資源になり得るものを再発見する」
- 14、寺嶋悠「知事の姿勢に疑問と違和感」
2021.7.6熊日新聞投書
被災住民の説明会開催の前に拙
速にダム建設を進めた。国とは異
なる立場で流域自治をすすめるべき
である知事の姿勢が疑問。責任を
取れないことまで責任を取ると断言
する姿に疑問と違和感が深まった

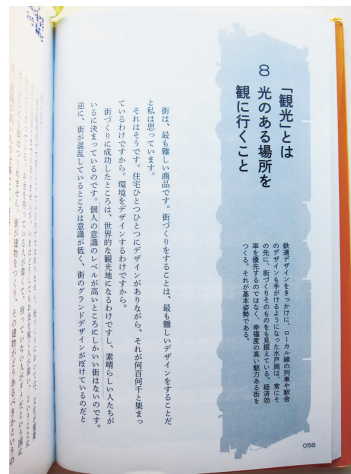
関連資料…

- 1、令和2年7月豪雨被災状況【速報版】
熊本県土木部2020.8.19改訂
- 2、人吉復興会議第1回記録 NPO
法人熊本まちなみトラスト
2021.4.14作成
- 3、人吉市偉人記念館・新図書館建設の
ために(会議資料) 2021.4.
28
- 4、人吉市街地被災現況調査
2021.5.7現在 (一社) 青井の
杜外苑街づくり協会
- 5、復興まちづくりに向けた「被災市街地
復興推地域」の制度に関する説明資
料 21.5.15
- 6、「人吉市中心市街地の復興まちづくりを
考える」意見交換会資料メモ2021
年6月13日
- 7、熊本県立図書館蔵「人吉市街地関係
絵図」2021.6.13人吉復興会議
討議資料 NPO法人熊本まちなみ
トラスト 青木勝士氏作成

- 8、第4回地区別懇談会資料(中心市街
地、麓・老神町) 令和3年7月19日
- 9、第4回紺屋町・九日町再生会議の概
要メモ 令和3年7月21日
- 10、球磨川説明資料「球磨川流域の復旧・
復興に向けて」令和3年6月22日国
土交通省 八代河川事務所
- 11、球磨川水系治水対策説明資料「球磨
川流域の復旧・復興に向けて」令和3
年7月19日 国土交通省八代河川事
務所
- 12、「人吉の復興まちづくり」に向けて、
シリーズその① 被災から1年、「人
吉の町これから」をどう考えます
か? 個人アンケートから被災した人
吉のこれからの探る 松本晋一 くま
がわ春秋 第64号2021年7月
- 13、「人吉の復興まちづくり」に向けて、
シリーズその② 個人アンケートから
被災した人吉のこれからの探る 松本
晋一 くまがわ春秋 第65号2021
年8月



〈筆者連絡先〉熊本県人吉市九日
町115 (〒868-0004)
TEL 0966-22-2928



水戸岡鋭二「あと1%だけやってみよう」
56〜65P 集英社インターナショナル
2013